

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 25 期第 4 回)

日時：2021 年 10 月 29 日 (金) 14:20～15:30

場所：オンライン会議 (新型コロナウイルス感染症対策下のため、
ZOOM ビデオ会議システムを使用。)

出席者：林、渡部、山崎、生田、浅井、今田、奥村、梶田、坂井、佐々木、新永、須藤、住、
田代、田近、千葉、常田、深川、藤井、藤澤、観山、村山、山田

欠席：相川

オブザーバー：山岡 均 (国立天文台)、大石雅寿 (国立天文台)、富田晃彦 (和歌山大学)、
清水敏文 (宇宙科学研究所)、山本 智 (日本天文学会)、岡 朋治 (宇電懇委員長)、本原
顕太郎・長尾 透 (光赤天連委員長・委員長代理)、鶴 剛 (高宇連会長)、田島宏康 (CRC 実
行委員長)、当真賢二 (理論懇運営委員長)

(順不同、敬称略)

(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

今回の分科会から、IAU Division E で Vice President に就任された清水敏文氏が、役職指定によりオブザーバーとして参加する旨、説明があった。

1. 活動報告

(1) 総会の報告

渡部委員長より、資料 1 に沿って報告があった。2021 年に釜山で行う予定であった IAU 総会は、サイエンス部分が 2022 年 8 月 2～11 日に延期され、事務関係のセッションのみが 2021 年 8 月 23～26 日に完全オンラインで行われた。これらのセッションでは、新加盟国の承認、予算・決算の説明・承認、規則改正の承認、4 つの resolution の説明 (後日、会員の投票による承認)、名誉会員の承認と紹介、Executive Committee および各委員会役員の承認、各部会等の役員紹介が行われた。

名誉会員は厳しい審査の後、11 名が承認され、うち 1 名に、当分科会が提案した中桐正夫氏が、日本で初めての名誉会員として選ばれた。Executive Committee (全 12 名) の新体制としては、IAU の新しい President を Debra Elmegreen 氏、General Secretary を Jose Miguel Rodriguez Espinosa 氏が務め、日本からは渡部潤一委員長が Vice-President (2 期目) を務める。また、Special Nomination Committee 委員に河野孝太郎氏、Division E の Vice President に清水敏文氏が選ばれるとともに、複数の Division の Steering Committee 委員をはじめ、Commission や Working Group においても引き続き日本から多数の IAU 会

員が運営に貢献することになった。

(2) 今後の IAU スケジュール確認（会員登録、推薦など）

山岡氏より、資料 1 に基づいて、IAU の新会員と PhD Prize の募集・審査の日程が説明された。新会員（個人会員・若手会員）は 12 月 15 日締切で募集中であり、その後、日本では当分科会が 1 月 21 日に審査を行う予定である。さらに IAU 側の審査を経て、2022 年 5 月に新会員が公表される予定となっている。なお、名誉会員の推薦の機会は 3 年に 1 度であり、今回は募集が無い。PhD Prize の募集も 12 月 15 日締切で行われており、各 Division で毎年 1 名が表彰される。受賞者は釜山の総会に招待され、講演の機会を得る。

(3) 学術会議国際学術団体登録申請について

渡部委員長より、国際学術団体の活動調査資料の共有があった（資料 1）。これに関連して、IAU への加盟には日本学術会議から相当額の国費が支払われており、それに対する貢献が常に見られていることを認識する必要があるという点を確認した。また、IAU は天文学の研究面にとどまらず、暦など幅広い人々の関心に大きな影響を持つ国際機関であるため、社会における役割を分かりやすく伝えていくことが重要であろうという意見が出された。

(C 大石) IAU と ITU の間のリエゾンなど、資料に記載されていない役割がある。次回はより網羅的に報告してはどうか。

2. IYBSSD について

渡部委員長より、資料 2 に基づいて、学術会議における「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (International Year of Basic Science for Sustainable Development 2022)」の活動について報告があった。対応する連絡会議が学術会議に設置され、本分科会からは渡部委員長がコアメンバーとして参加し、生田副委員長、山岡氏もワーキンググループに登録されている。天文学分野としては、世界天文年等の経験を生かして貢献することを念頭に、日本天文協議会を連絡会の前に開催し、各団体に趣旨を説明した上で、協力を得る方向で動き出す予定で進めている。基礎科学がいかに社会の発展に寄与するかを世の中に広く知っていただくため、学術会議全体の総括的な活動に加え、物理学委員会で分野の特性に応じた活動を検討する可能性もあると考えられる。

3. その他

- 富田氏より、資料 3 に基づいて National Astronomy Education Coordinator (NAEC) 日

本チームの活動の報告があった。IAU Office of Astronomy for Education (OAE)から「ビッグ・アイデア：天文学の主要概念、天文学リテラシーの提案」の第2版が発表になったため、NAEC 日本チームの有志で日本語版を作成し、当分科会のウェブページからもリンクを貼る予定である。その他、OAE による教育カリキュラムの分析やプラネタリウムに関するアンケート調査などの調査・資料収集へ協力していることや、10月の3rd Shaw-IAU Workshop on Astronomy for Education に日本から参加したことなどが報告された。また、IAU Division C (Education, Outreach and Heritage)では富田氏が Steering Committee メンバーに選ばれ、Division 下のワーキンググループ体制の構築をはじめ、運営に貢献している。

- 山岡氏より、全国同時七夕講演会と日本天文学会ジュニアセッションについて、学術会議の後援を申請する予定であることが報告された。
- 大石氏より、Dark and Quiet Skies ワークショップの2回目が10月前半にオンラインで開催されたことについて報告があった。700名以上の参加登録があり、広く課題を認識してもらえる機会となった。地上の光害、地球低軌道人工衛星の光跡、電波天文観測への影響の3つのグループでセッションが開かれた。ワークショップの成果は報告書にまとめられ、公開される予定である。IAU は新しいセンターを設立するなどして引き続きこの課題に取り組んでいく方向である（参考：<https://iau.org/news/announcements/detail/ann21039/>）。

(以上)